

和紙の未来を託す

細川紙・大河原和紙技術者研修生支援事業

4月より後継者育成事業に対し、研修生として和紙技術を学んでいる中野晴実さんと市村太樹さん。研修開始から半年が過ぎた今、和紙に対する想い、後継者としての心構え等、お話を聞きました。



▲中野晴実さん



▲市村太樹さん



9月11日(月)根岸光一さん宅で、楮ひき(楮のごみ取り作業)をおこなっているところに訪問しました。

☆研修生になろうと決意したきっかけはなんですか？

中野さん：「半農半X」（自給自足と趣味を兼ね合い暮らす）というライフスタイルに感銘を受けて、興味あることを仕事にしたいと思いました。

市村さん：通っていた大学の卒業証書を漉いてくださったのが指導者の根岸さんでした。感動して、いつか自分も誰かの卒業証書を漉きたいと思いました。

☆研修を始めて大変だった、嬉しかったことは何ですか？

市村さん：和紙はその時々状況によって材料の配分が違って…「考えて行う仕事」というのが大変ですね。でも、ぼくたちを応援してくれる人がたくさんいることは嬉しいです。

☆驚いたことはありますか？

中野さん：始めて思ったのは、和紙を作る工程はすごく複雑で…全部考えた昔の人にビックリです！！

☆研修3年間への決意をお聞かせください。

中野さん：皆さんに「美しい紙ですね」と言ってもらえる和紙を早く漉きたいです！

市村さん：指導者の言うことを聞いて、しっかりした生徒であろうと思います。

◀ 和紙の里文化フェスティバルで紙漉きの実演をする中野さん

指導者・根岸光一さんから2人へ…

細川紙技術者協会会員であり、研修生2人の指導を行っている根岸光一さん（安戸・84歳）からお二人へメッセージをお願いします。和紙漉きだけではなく、他の技術についても同じことが言える深い言葉をいただきました。

和紙漉きは「生きると思えば生きられる」と同じ。「やる気があれば一生できる」でも「やる気がなければ一瞬にして終わる」。この2人は私の言うことを必ず聞いてくれる。1から10までは教えないが、ある程度教えるから「見様見真似」で、そしていつかは自分なりの技術が教えなくてもできるだろう。

また、大切なのは昔の人がやってきた工程は全部覚えておくこと。何に対しても言えるが、万が一の時生きる。がんばってほしい



和紙職人になるために
努力しているお二人を応援しています！

